

平成27年8月17日(月)

老球の細道156

トステインがやって来る

会津バスケットボール協会 室井 富仁

3年前東京都内において、ハヤブサジャパン(全日本代表チームの愛称)平成24年度バスケットボール日本代表のヘッドコーチ、アソシエイトヘッドコーチ就任記者会見が行なわれた。会津地区にはお馴染みのトステイン・ロイブル氏がアソシエイトヘッドコーチに就任した。アソシエイトヘッドコーチというのは、チームの戦術や練習内容などを考えたり、世界の動向を見ながらジャパン代表の方向性を決める仕事をする。また、スポーツディレクターとして日本代表からアンダーカテゴリー(U-18、U-16)まで一貫した指導を行う責任者の立場にも就くことになった。

次の内容は、当時の記者会見でのトステインのメッセージである。トステインらしい含蓄のある内容で、期待にワクワクさせられた。

「過去10年間にわたり、全国のミニバスからプロまで全てのレベル、全都道府県のバスケットボールを見てきました。日本のバスケットボール選手たちの潜在能力の高さには驚かされています。私は『眠っている巨人』と呼んでいます。巨人ではあるのですが、その潜在能力を活かしていません。私の役割はその『眠っている巨人』の目を覚ますことであり、日本を世界レベルへと引き上げることです。アンダーカテゴリーから着手し、明るい未来を手に入れるべく強化していきます。この大きなミッションに立ち向かいながら巨人の目を覚まし、皆さんが想像もしないようなところへ日本のバスケット界を導いていきたいです」

実は、彼には7年前日本代表ヘッドコーチのオファーがあった。当時の日本代表男子チームはアジア選手権で過去最低の9位という成績を残しどん底状態だった。そのためロンドンオリンピック出場に向けて代表チームのヘッドコーチが新たに選ばれることになった。5人の候補者の名前があがり、その中の一人にトステインも選ばれた。最終的に、当時「リンク栃木」のヘッドコーチだったトマス・ウイスマン(米国)とトステインが残ったが、ウイスマンに白羽の矢があたった。前年JBLリーグ戦でリンク栃木を優勝させた実績がものをいったのだと思う。この時トステインはものすごく残念だということを語っていた。なぜなら、今の日本のバスケットボールを立て直すにはアメリカナイズされたバスケットではなく、基本に忠実なヨーロッパのバスケットを取り入れなければならないという信念を彼は持っていたからである。

トステインとは10年以上前からの交流になるが、彼のバスケットボールには共感させられることが多い。特に、ファンダメンタルのきめ細かさ、段階的ドリル作成の巧妙さ、コーディネーションドリルの面白さ、その他モチベーションアップの発想の豊かさなど、今まで日本のバスケットボールにはなかったユニークさが私を引きつけた。会津地区協会としても長い間一貫してクリニックをお願いしてきた。

今年も8月29日(土)30日(日)にトステインが会津にやって来る。15年連続17回目の「トステインクリニック」である。アンダーカテゴリー日本代表のノウハウを学びながら、改めて世界レベルでバスケットボールを考えていきたい。現在のレベルがどうあろうと目指すは世界、超一流のレベルを。そしていつの日か会津からジャパン代表を。